



Sobagni

長期ビジョン・中期経営計画

2024年5月27日

共和レザー株式会社

証券コード3553

■ 会社概要	03
--------------	----

■ 特徴・強み	11
---------------	----

■ 長期ビジョン・中期経営計画	16
-----------------------	----

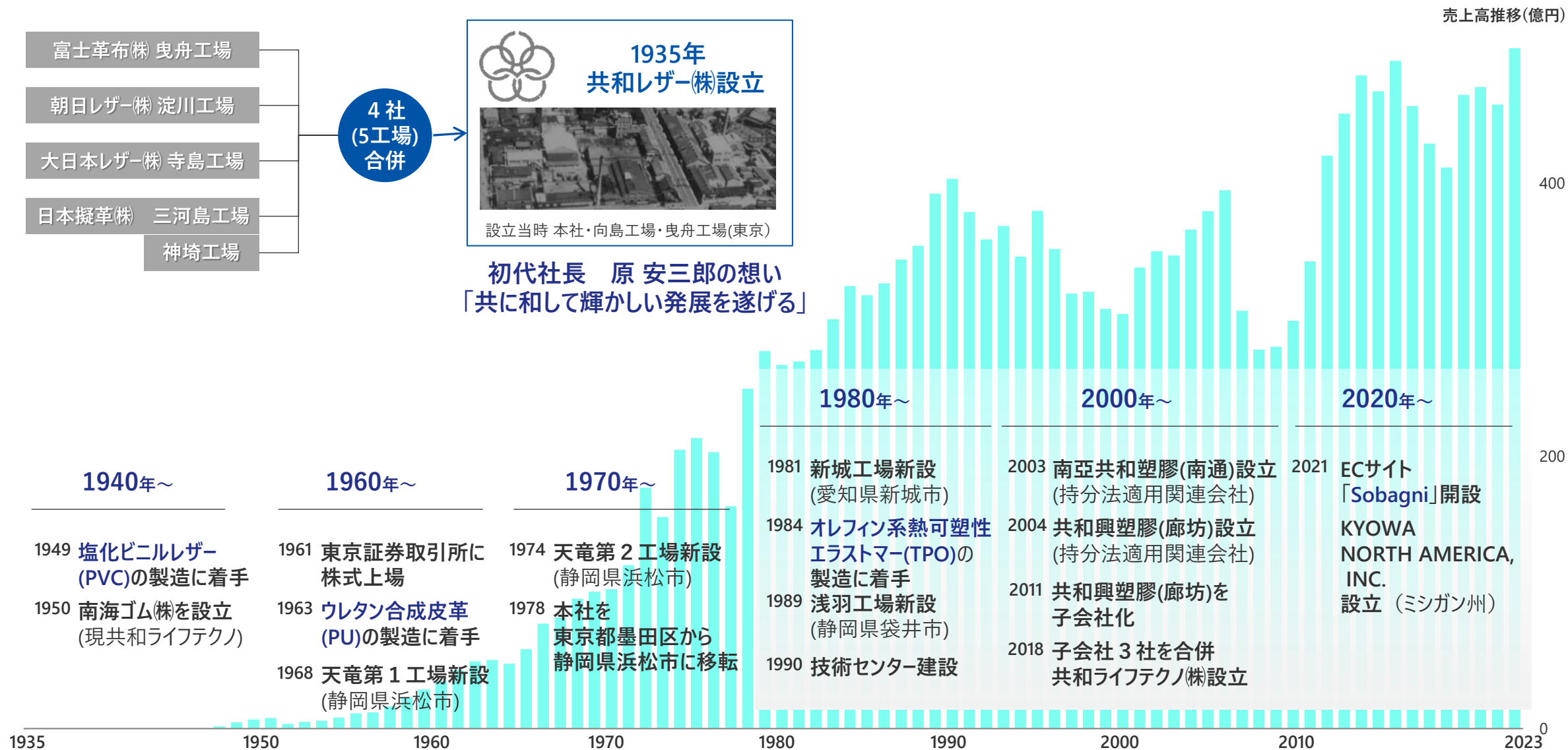


会社概要



社名	共和レザー株式会社
設立	1935年（昭和10年）8月
売上高	520億円（2024年3月期）
連結従業員数	1,395名（ほか臨時従業員 113名）（2024年3月末）
商品	車両用 内装用合成皮革、内装用成形複合材、内外装用加飾フィルム
	住宅・住設用 鋼板・合板用化粧フィルム
	ファッション・生活資材用 家具用合成皮革、靴履物用合成皮革、雑貨用合成皮革
事業所	本社、技術センター、Q A センター、東京営業所、阪神営業所、 天竜第 1 工場、天竜第 2 工場、新城工場、浅羽工場
連結子会社	共和ライフテクノ株式会社 共和サポートアンドサービス株式会社 共和興塑膠（廊坊）有限公司（中国）
持分法適用関連会社	南亞共和（南通）有限公司（中国）





1935年 共和レザー設立

住宅・雑貨

壁面クロス・ゴム製ホース
手袋・長靴・水産用合羽



住宅・生活資材

1951年

自動車用塩ビレザー

自動車用塩ビレザーの生産開始



自動車用PVC

複合材

1963年

ファッション用ウレタン合皮

靴・鞆用「ウレタン合成皮革」開発



ファッション用ウレタン合皮

フィルム

1990年

PVC成型表皮

PVC成形表皮「ソファⅢ」開発



成形表皮

自動車用ウレタン表皮

1993年

ドア用TPO表皮

ドア用TPO生産開始



TPO

1949年

家具用塩ビレザー

家具用塩ビレザーの生産開始



1960年

自動車複合材

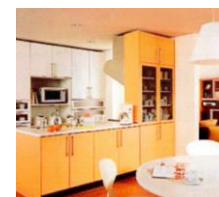
PVCとウレタンフォームの積層化



1989年

産業資材用フィルム

住宅住設向け化粧フィルム
生産開始



1992年

自動車内装材 ウレタン合皮

自動車シート用合皮開発



2012年

自動車内装材 ウレタン合皮

自動車シートメイン用合皮
生産開始



－ 自動車用表皮材のトップメーカーとして様々な部位に採用

サンバイザー：PVCシート

ステアリングホイール
：PU合成皮革

ドアトリム：TPO複合材・PVC複合材
ドアオーナメント：PVC合成皮革・PU合成皮革

トノカバー
：PVC合成皮革

ラゲッジカバー
：PVC合成皮革



インストルメントパネル
：TPOシート・TPO複合材
・加飾フィルム

シフトブーツ・アシストグリップ
：PU合成皮革



座席：PVC合成皮革・PU合成皮革

シートバックボード：TPO複合材・PVC複合材

－ 住設分野で培った商品力を新幹線用など産業用途にも展開

木目フィルム



屋外フィルム



抗耐光性

大型成型フィルム



TOM成形

粘着フィルム



成型フィルム



メンブレン
成形



石目柄



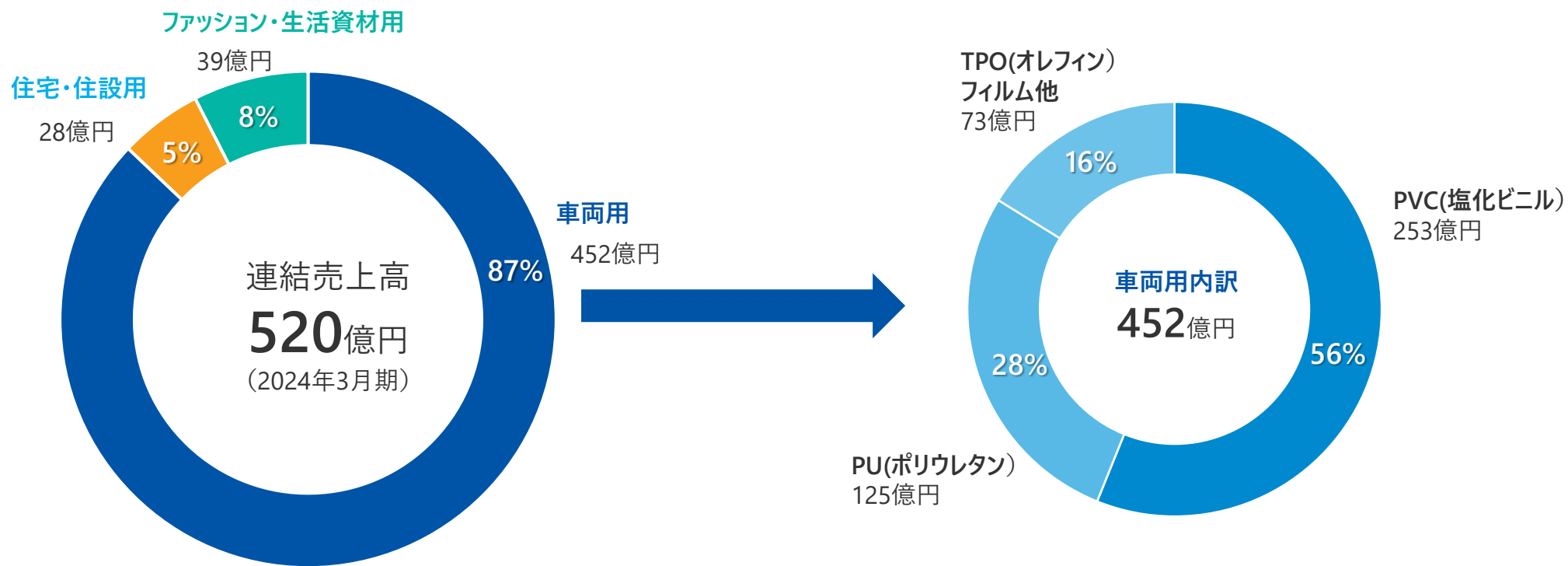
木目柄



金属柄

- 売上高の87%が車両用内装材で自動車用内装合成表皮材で国内トップ、世界でもトップクラス
- 住宅・住設用ではキッチン、ユニットバス、玄関ドアなどに耐久性に優れたフィルムを提供、ファッション・生活資材用では合成皮革をかばんや婦人服、ブーツなどに商品化して販売

用途別売上高



PCV:ポリ塩化ビニル、PU:ポリウレタン、TPO:オレフィン系熱可塑性エラストマー

共和レザー

子会社・関連会社

共和興塑膠（廊坊）有限公司
（中国河北省・廊坊市）
車両用合成皮革の製造・販売
（連結子会社）



北京
廊坊

南通
上海

南亞共和塑膠（南通）有限公司
（中国江蘇省・南通市）
住宅住設用フィルムの製造・販売
（持分法適用関連会社）



新城工場
（愛知県新城市）
TPO複合材・TPOシート
・PVCシート



天竜第1工場
（静岡県浜松市）
PVC合成皮革・PVC複合材



天竜第2工場
（静岡県浜松市）
P U 合成皮革



**本社
Q A センター
技術センター**
（静岡県浜松市）

東京営業所
（東京都港区）

阪神営業所
（兵庫県神戸市）

共和ライフテクノ(株)
（徳島県鳴門市）
ファッション・生活資材用合成皮革
住宅住設用フィルムの製造・販売
（連結子会社）



浅羽工場
（静岡県袋井市）
鋼鉄合板用フィルム、
加飾フィルム



共和サポートアンドサービス(株)
（静岡県浜松市）
労働者派遣事業、倉庫業、
合成皮革の製造付帯業務
（連結子会社）





特徴・強み



- ー 共和レザーの強みは ①材料技術 ②意匠技術 ③製造技術
- ー 自動車メーカーの厳しい品質要求をクリアする製品を量産、自動車用内装合成表皮材では国内トップ



- 合成樹脂と適切な添加剤を配合し、混練分散（均一に混合）させる 材料配合と生産技術のノウハウを持つ
- 機能性材料の添加や表面処理加工を施し、防汚性、抗カビ・抗菌性、昇温抑制機能など多様な機能を付与

混練分散

- ポリ塩化ビニル（PVC）
- ポリウレタン（PU）
- オレフィン系熱可塑性
エラストマー（TPO）等



添加剤

機能性材料や、均一に混ぜ合わせるための添加剤を添加



多様な機能の付与

防水

防カビ

抗菌

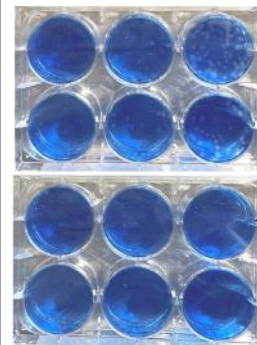
赤外線
反射

防汚

消臭

耐熱

紫外線
反射



未加工品
白い斑点が
ウイルス感染

抗ウイルスレザー
白い斑点がない

機能性材料の例

抗ウイルスレザー

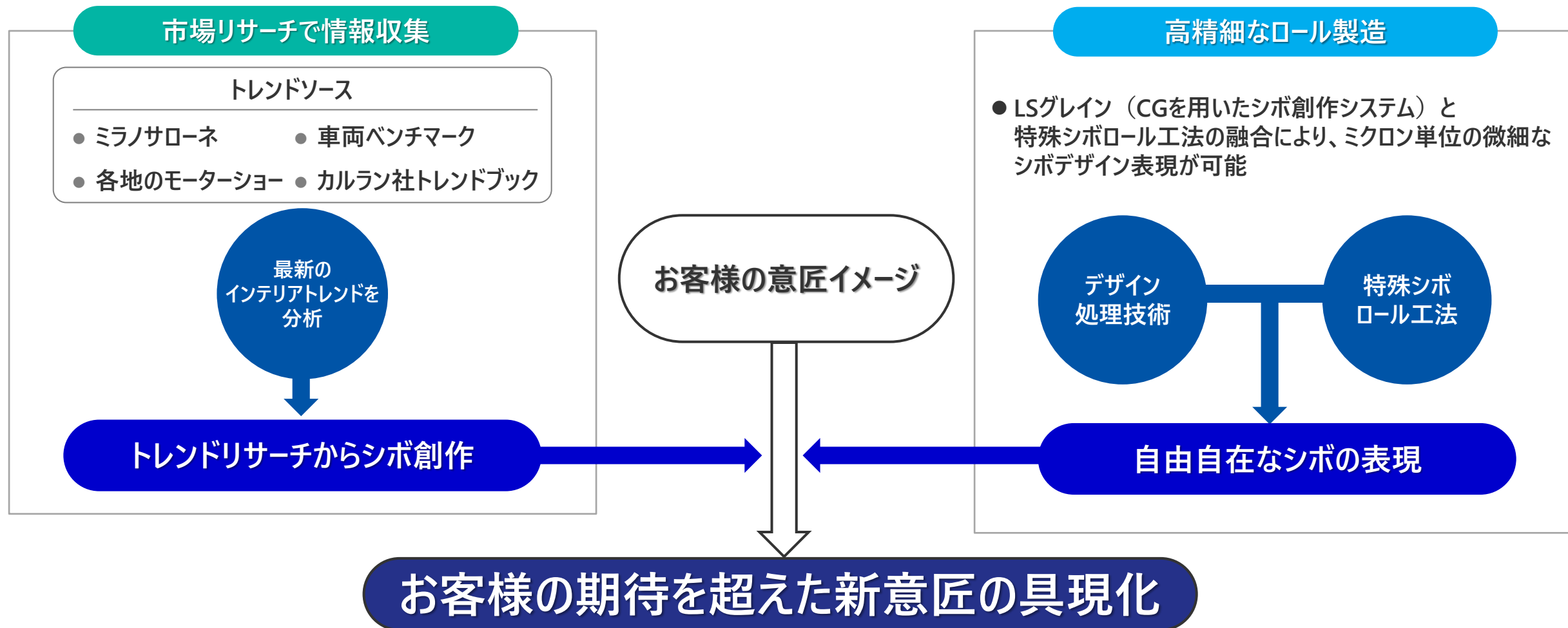
表面処理剤に抗ウイルス剤を分散し、
積層

太陽熱反射外装フィルム

PVCに紫外線/赤外線を反射する
顔料を配合

2. 意匠技術（デザイン性）

- ミラノサローネ、カルラン社のトレンドブック、トレンド調査、車両ベンチマーク*等を参考に、オリジナルシボ**を創作
- お客様の期待を超える、ニーズやコンセプトに合わせた革の色や質感、シボのパターンを具現化



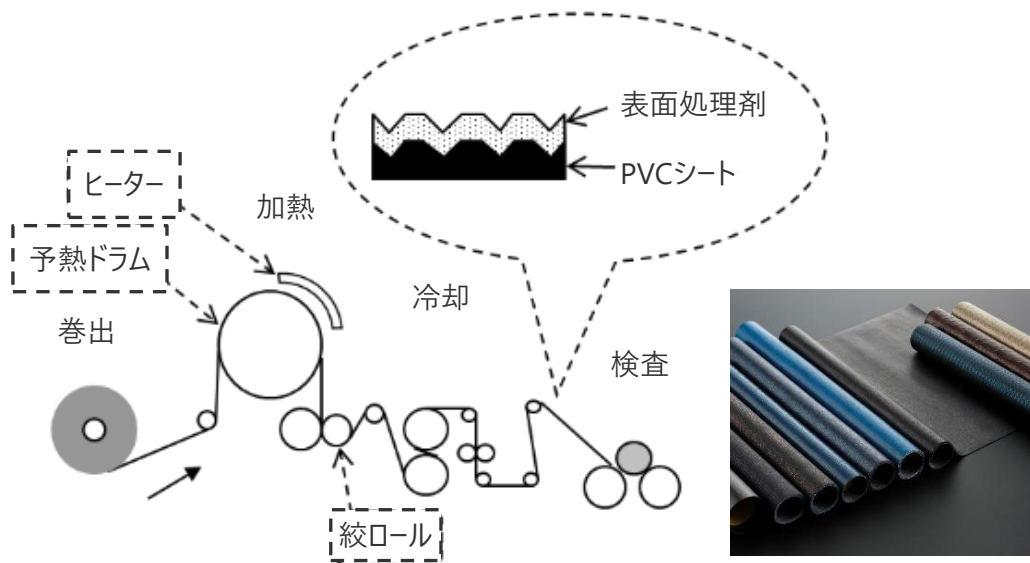
* 車両ベンチマーク：多数の車種の内装等の色や柄のトレンドを当社が調査したもの

** シボ：革の質感や外観を形作る表面の柄目や模様の凹凸

－ カレンダー加工(圧延)を行った合成フィルムの貼り合わせ技術や、エンボス*・加飾加工技術

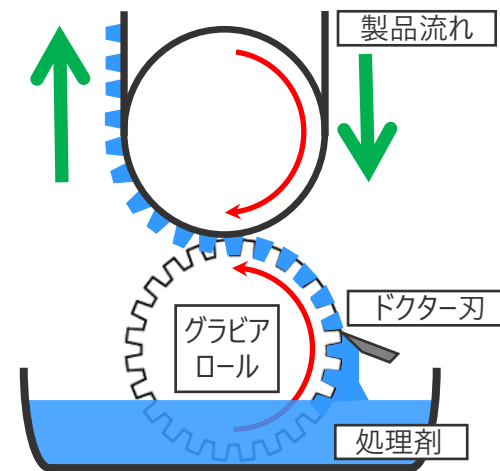
エンボス加工技術

- 凹凸の彫刻を行った金属ロールにフィルムを挟み、フィルムに凹凸を付けるLSグレインによりミクロン単位の微細な彫刻をしたシボも可能
- 温度や圧力などを適切に管理することで、耐熱性や耐薬品性など機能を付与したフィルムに、エンボス加工が可能



加飾加工技術

- 金属ロールの表面に微細な加工を施し、そのデザインを忠実に基材に転写させて印刷する技術



凹凸のないフィルムだが、
印刷技術により影を付け凹凸を表現

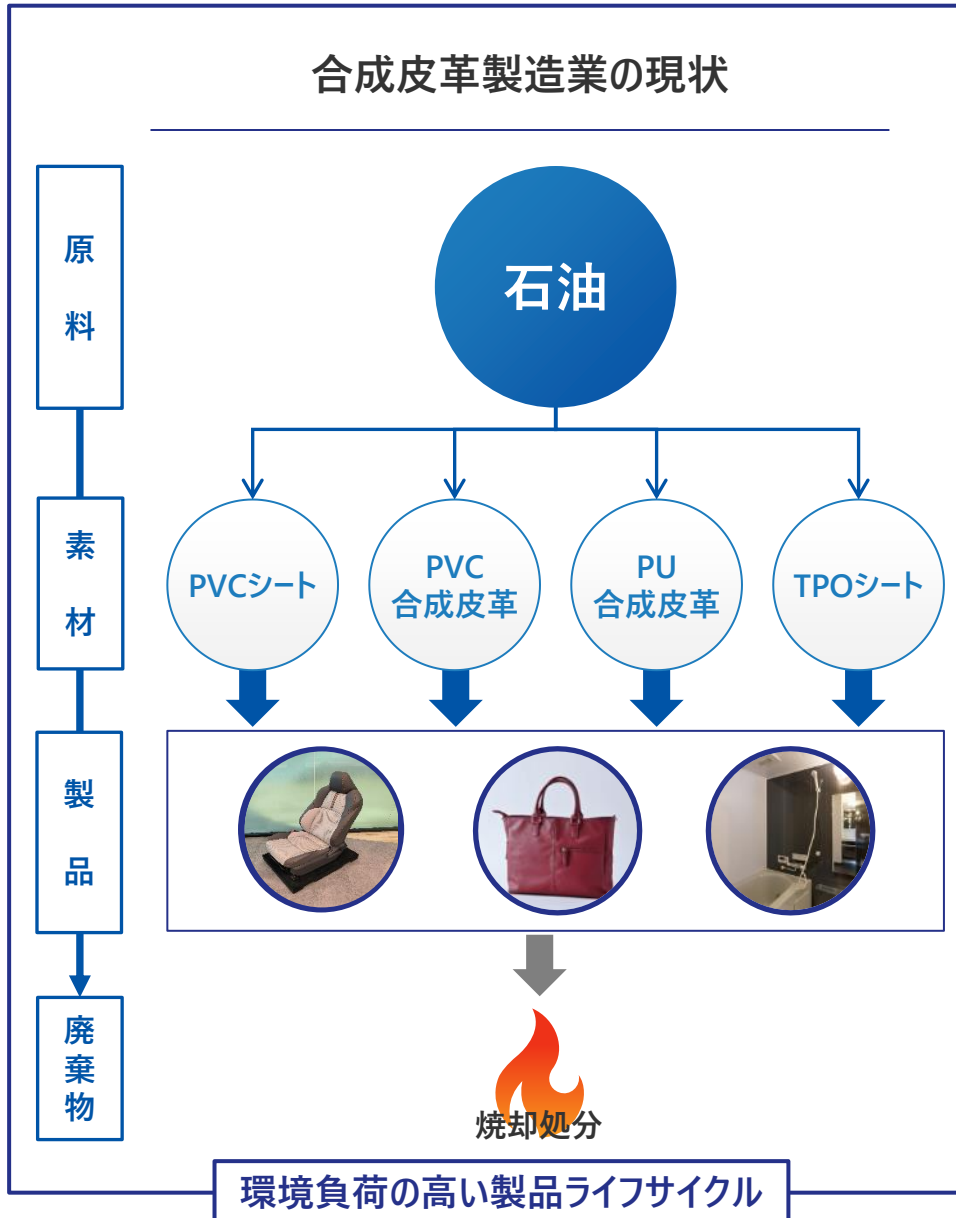


* エンボス加工：合成皮革やフィルム製品の表面に凹凸の模様をつける加工方法



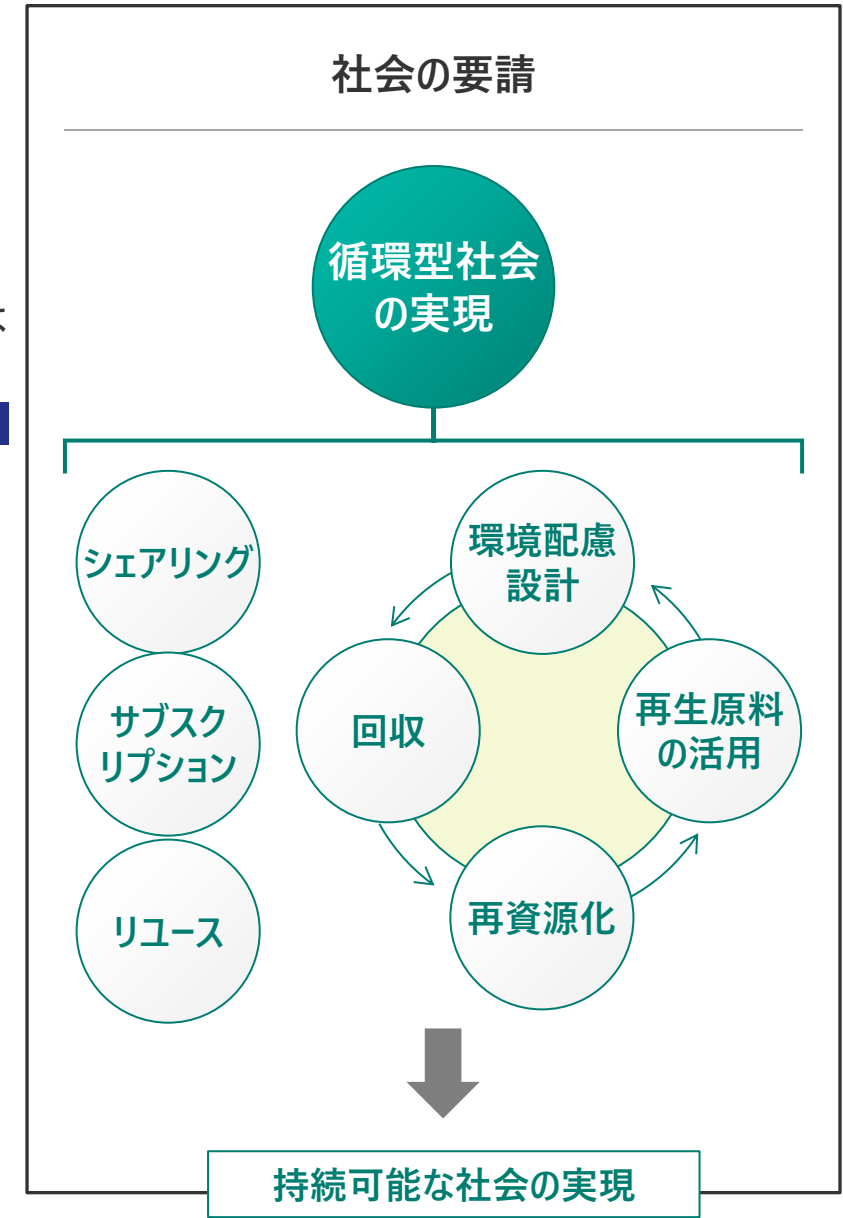
長期ビジョン・中期経営計画





共和レザーの現状のビジネスモデルは
社会の要請に応えきれていない

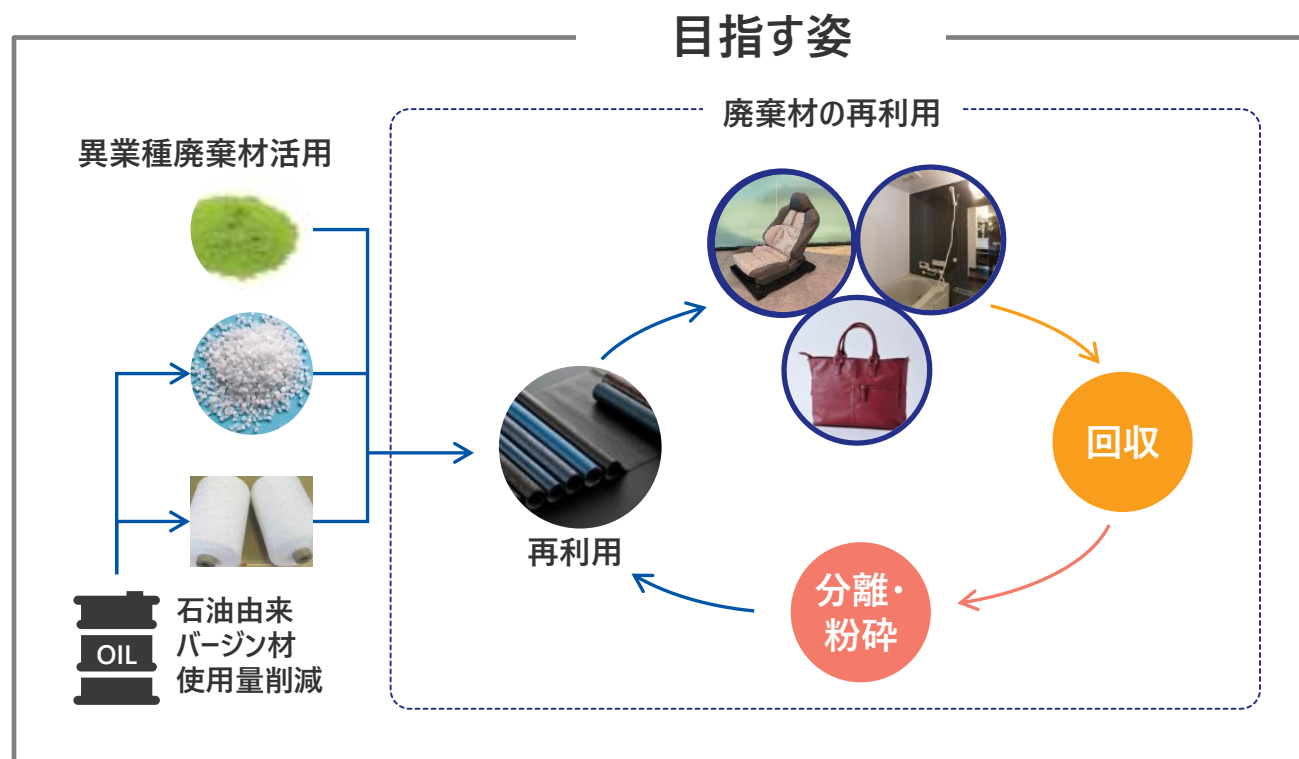
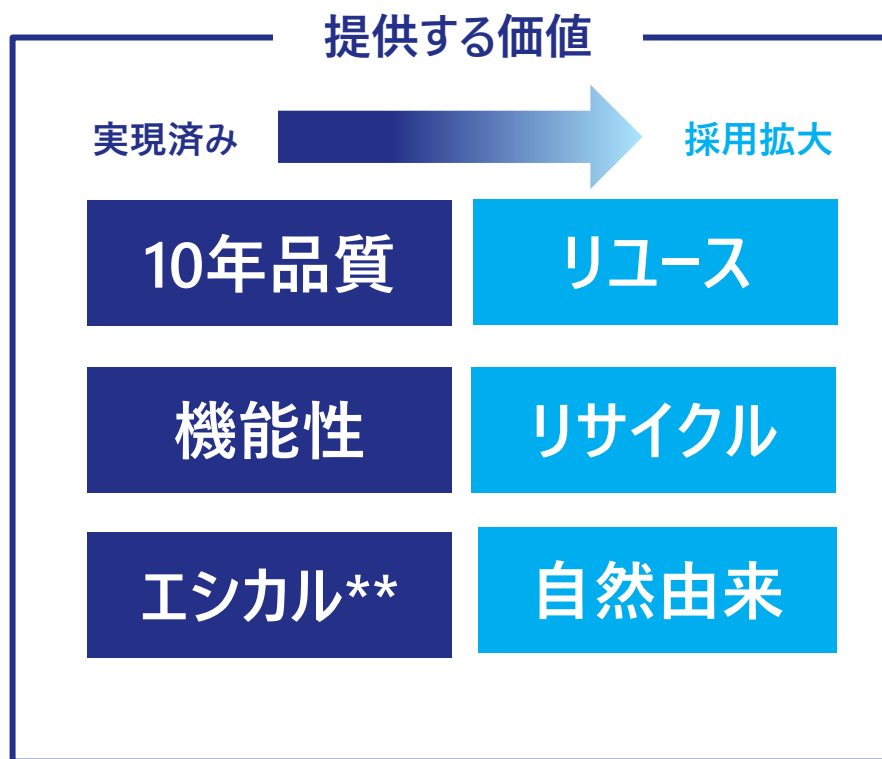
共和レザー
長期ビジョン



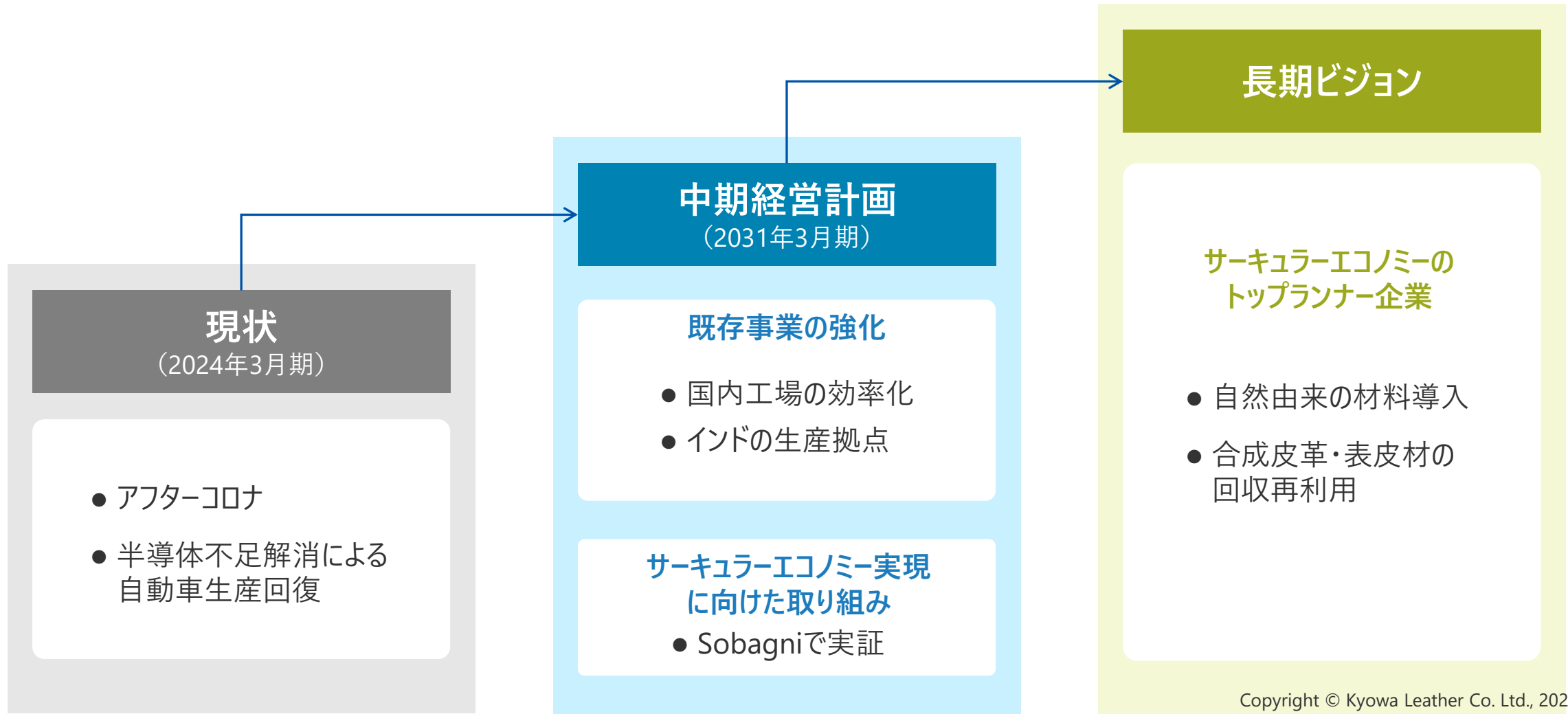
『サーキュラーエコノミー*を実現するトップランナー企業』となる

環境価値の向上により持続可能な成長を図る

自然由来の材料導入などにより、石油由来の原材料使用量を抑制
リサイクル・リユースなどを活用し、環境負荷の低い製品製造を実現する



- 長期的にサーキュラーエコノミーを実現するトップランナー企業となる
- 中期経営計画では、この実現に向けた取り組みの実践と、既存事業強化による収益改善を図る



2024年3月期

2031年3月期

売上高 520億円 → 550億円

営業利益 25億円 → 50億円

ROE 10.0 %
(株主資本当期純利益率)

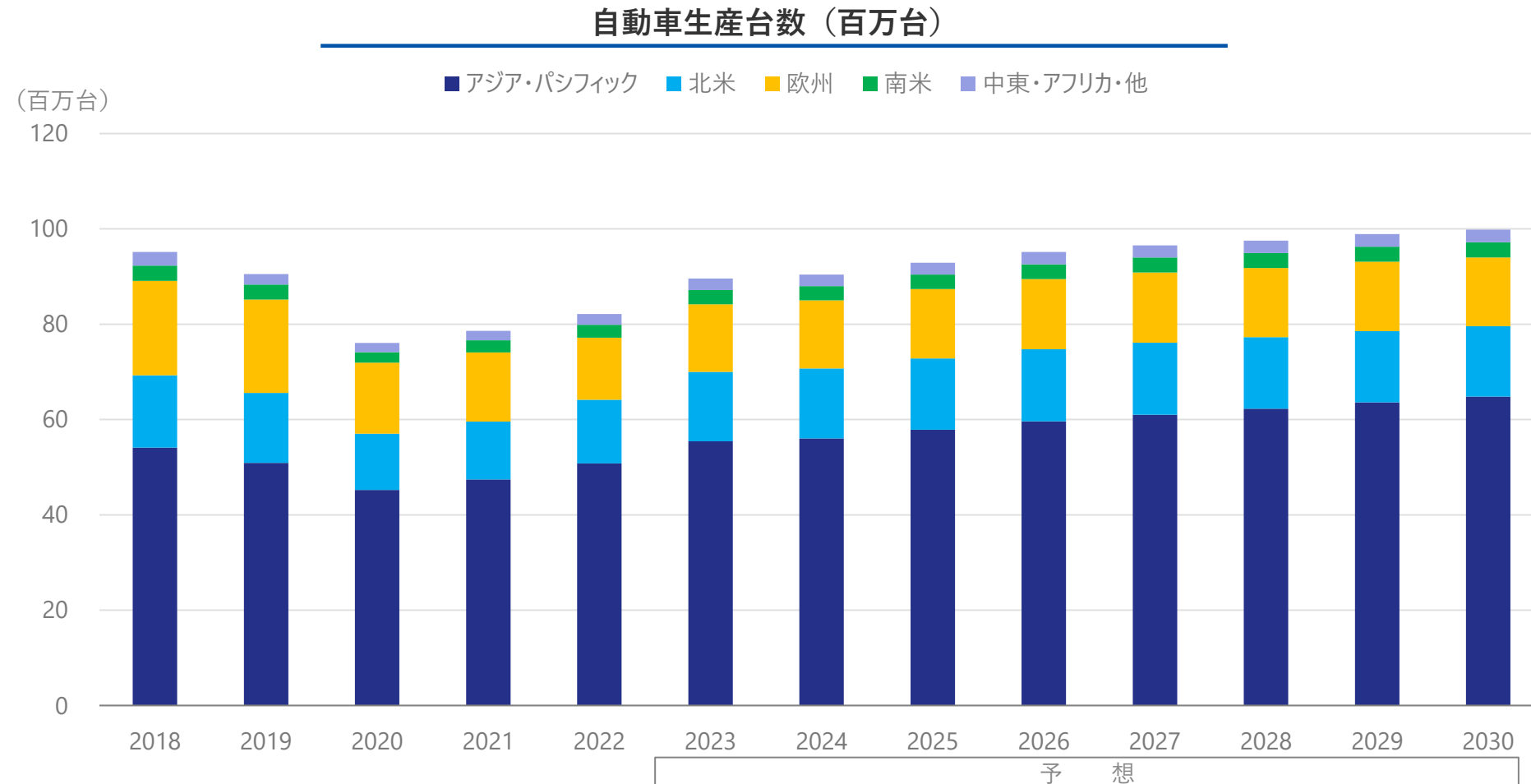
外部環境予測

- 新興国での自動車生産は拡大するが先進国の成長は鈍化する見通し
- 環境保護の高まりで、自動車用内装材に天然皮革だけではなく、合成皮革も使う傾向

主な施策

- ①国内既存工場の生産性向上
- ②インドで新規事業立ち上げ
- ③長期ビジョン実現に向け、『Sobagni』事業でサーキュラーエコノミーを実証

- 自動車生産台数はコロナ禍の影響を受けたが2020年を底に回復
- 先進国の市場は飽和に近づき伸びは緩やかだが、新興国（アジア・パシフィック）では市場は拡大しており今後も高い伸びを予想



- － 合成皮革は耐久性やメンテナンス性に優れており、SUVやミニバンなど多人数乗用でハードな使われ方をする車両に適した素材
- － BEV生産の新興自動車メーカーでは、エシカルと高性能の両立を目的に、本革より合成皮革が選ばれる傾向

2023年合成皮革仕様車種

TOYOTA



プリウス



MIRAI



アルファード



カローラ



bZ4X



RAV4



ハリアー



LEXUS ES



LEXUS IS



LEXUS RC



LEXUS NX



LEXUS UX

SUBARU



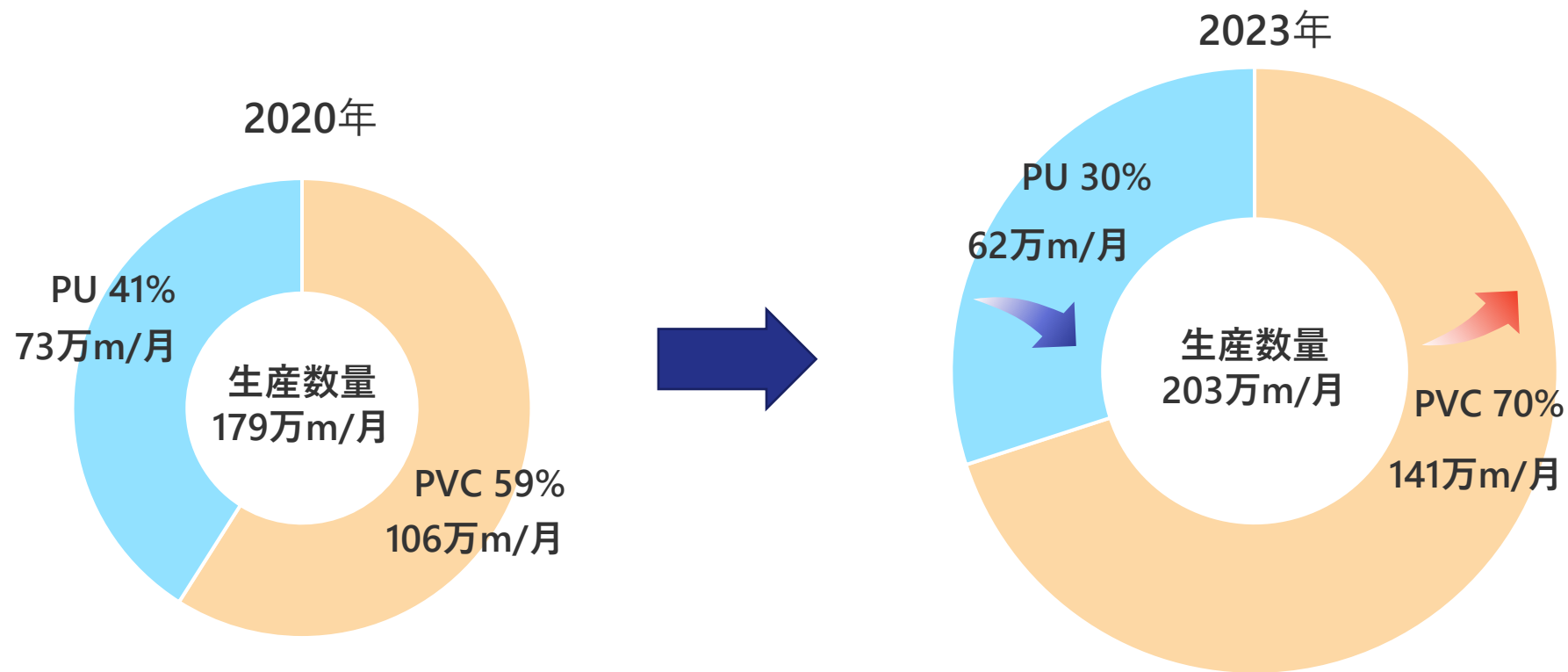
フォレスター



アウトバック

- 2020年以降、コスト面やリサイクル性の観点からPVCの需要が増加
- 当社のPU製品はピーク時の2020年に比べ、約15%の生産数量減少

PU・PVC生産比率と月間生産数量



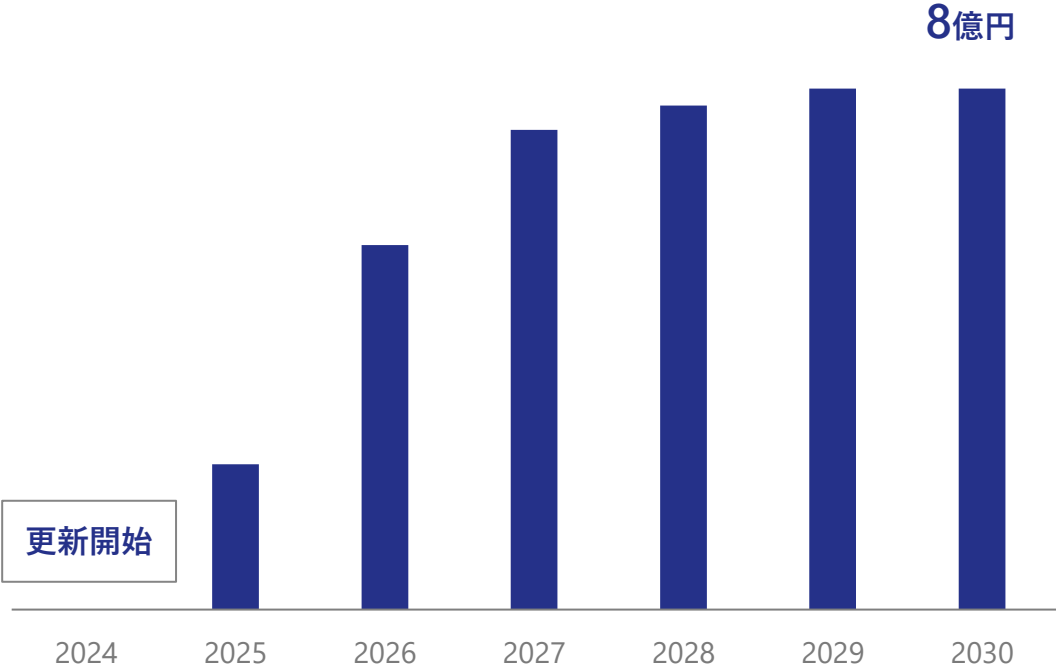
PVC需要は今後も増加の見込

- PVC需要増加対応のため、天竜第一工場を中心に老朽設備を更新し、生産効率向上 & 8 億円の合理化を見込む
- 国内自動車生産の今後の動向を見極め、既存工場の生産品目の再編等も状況に応じて検討

天竜第一工場の設備更新スケジュール

(百万円／年度)	設備 投資額	2024	2025	2026	2027	2028
カレンダー機	1,840					
ミキサー	250					
ラミネート機	540					
グラビア印刷機	410					
発泡機	580					
合計	3,620					

設備更新による合理化効果



- － 日・米・中市場は、市場成長鈍化を考慮し、30年中計では売上規模維持を前提
- － 売上(数量)拡大は、主に新規参入のインド事業を中心に事業計画を設定

インド市場

自動車生産台数 2020年 2030年
400万台 ⇒ 700万台 ※

中価格帯SUV
(300万円～500万円) 20万台 ⇒ 100万台 ※

低価格帯小型車か超高級車両の二極市場から
先進国で売れ筋のミニバン、SUVの需要が急成長

現在インドで使用されているPUや高価格帯PVCは
主に中国からの輸入品で関税・輸送費により割高と予想

共和レザー製品の強み

高触感

高耐久

当社製品の主な採用車両は

販売価格 300万円～800万円の中高級価格帯

リアシートの使用頻度が高い

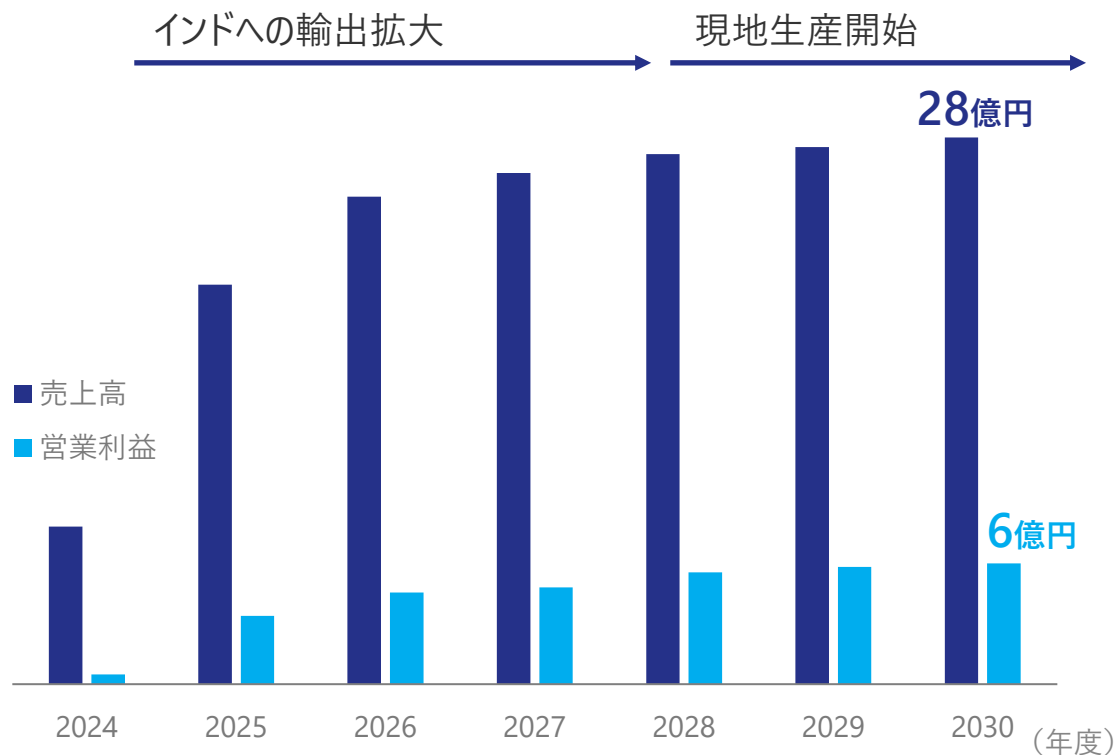
セダン、ミニバン、SUVカテゴリーに多く採用

インドは共和レザーの強みを活かせる巨大市場
先行優位で市場を構築し売上拡大を目指す

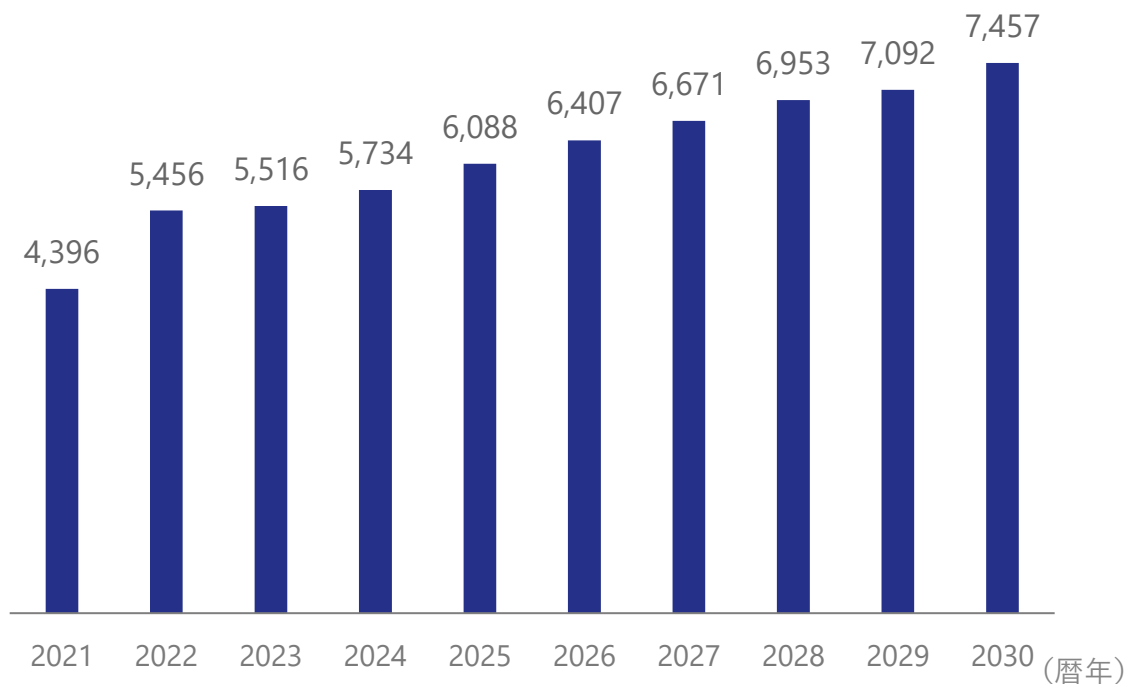
※当社予想

- インドでの自動車生産台数は2030年には2022年比 1.4 倍と今後も大きく成長する見込み
- クリシュナグループ*と提携し インド市場へ進出。 2024年から合成皮革を日本から輸出
2027年に現地生産工場立ち上げを検討

インドでの売上・営業利益計画



インドの自動車生産台数 (千台)



予 想

(出所) マークラインズ

*クリシュナグループ：インドで自動車部品の製造、不動産開発、旅行事業、メディア事業等を行っている企業グループ

サーキュラーエコノミーの実証として、『Sobagni』で2021年にB to Cビジネス参入

- 高級車に使われる合成皮革を、ファッションや生活雑貨の商品に展開
- 自動車向け端材の再利用やお茶など自然由来材料も活用
- ECサイト（Sobagni）開設し、B to Cビジネスに参入

エシカルレザーの良さを直接消費者にお届けすることで
人にも、動物にも、地球にも優しい企業を目指す

Quality

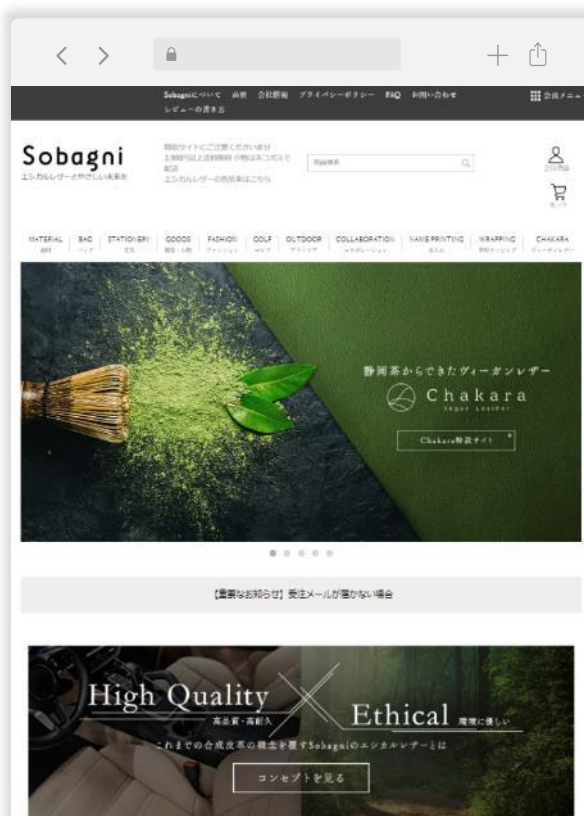
圧倒的な軽さ、
自動車の座席に使用される高い耐久性

Ethical

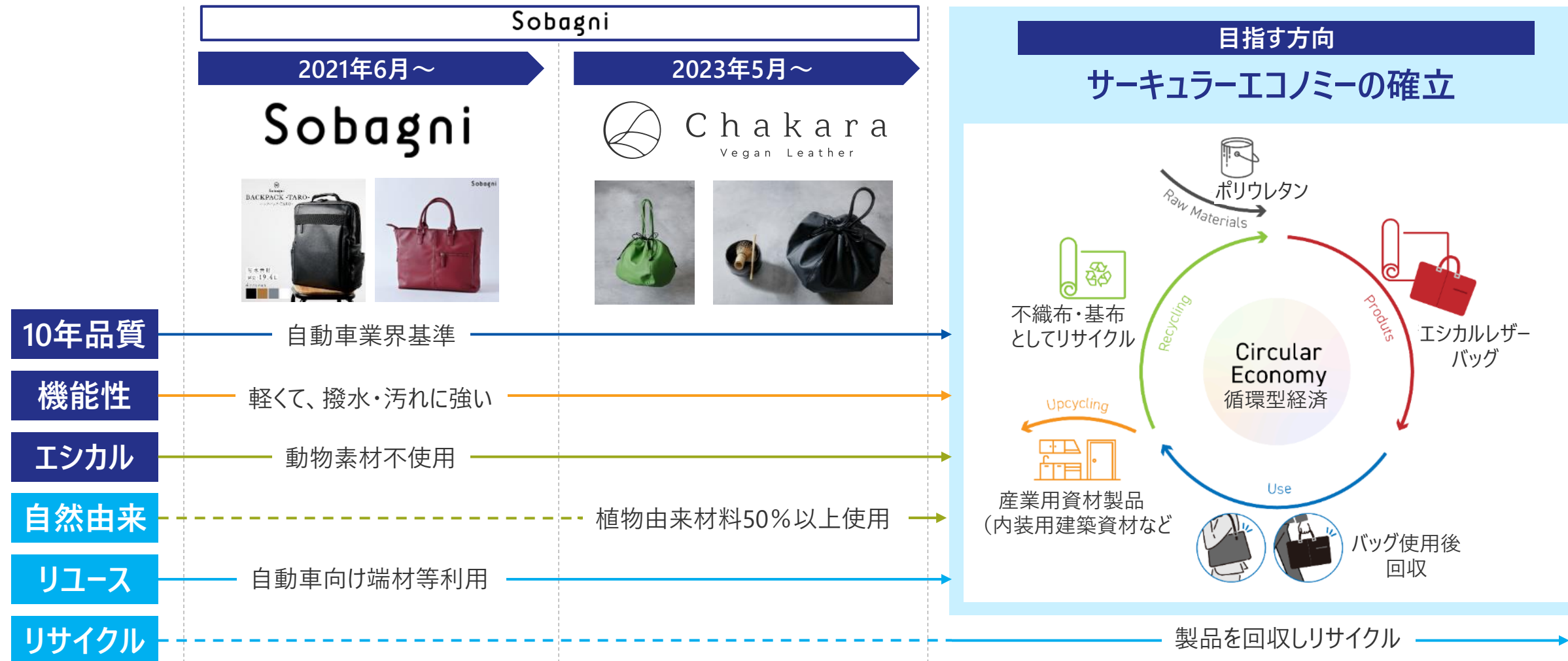
動物素材を使わず、
自然由来材料・再利用材料で
動物、人、地球に優しい

Partnership

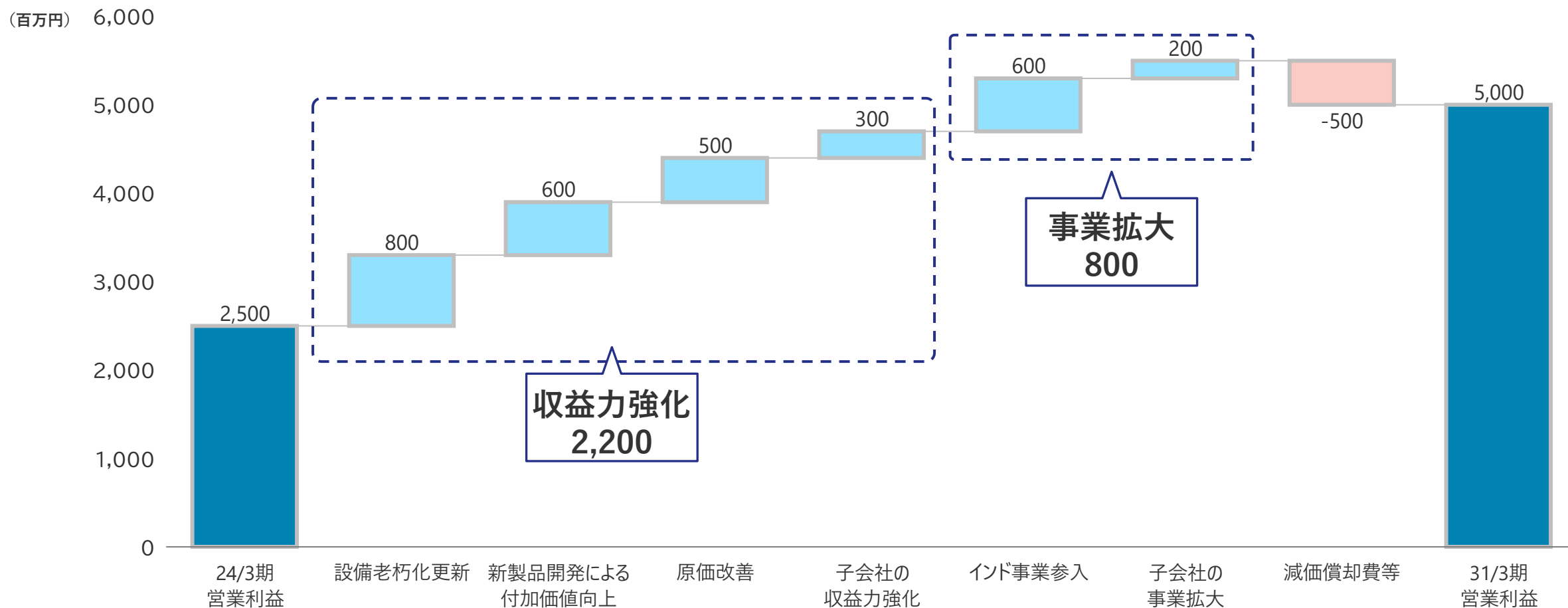
地域・企業との協業で
価値創造・社会貢献



循環型社会に求められる 製品・商品を 世の中に提供するという夢の実現



- － 天竜第一工場の設備更新等による収益力強化で22億円
- － 自動車向け合成皮革のインド事業参入等による事業拡大で8億円の増益を計画
- － 一方で、減価償却費等の増加を見込み、2031年3月期の営業利益は50億円を計画

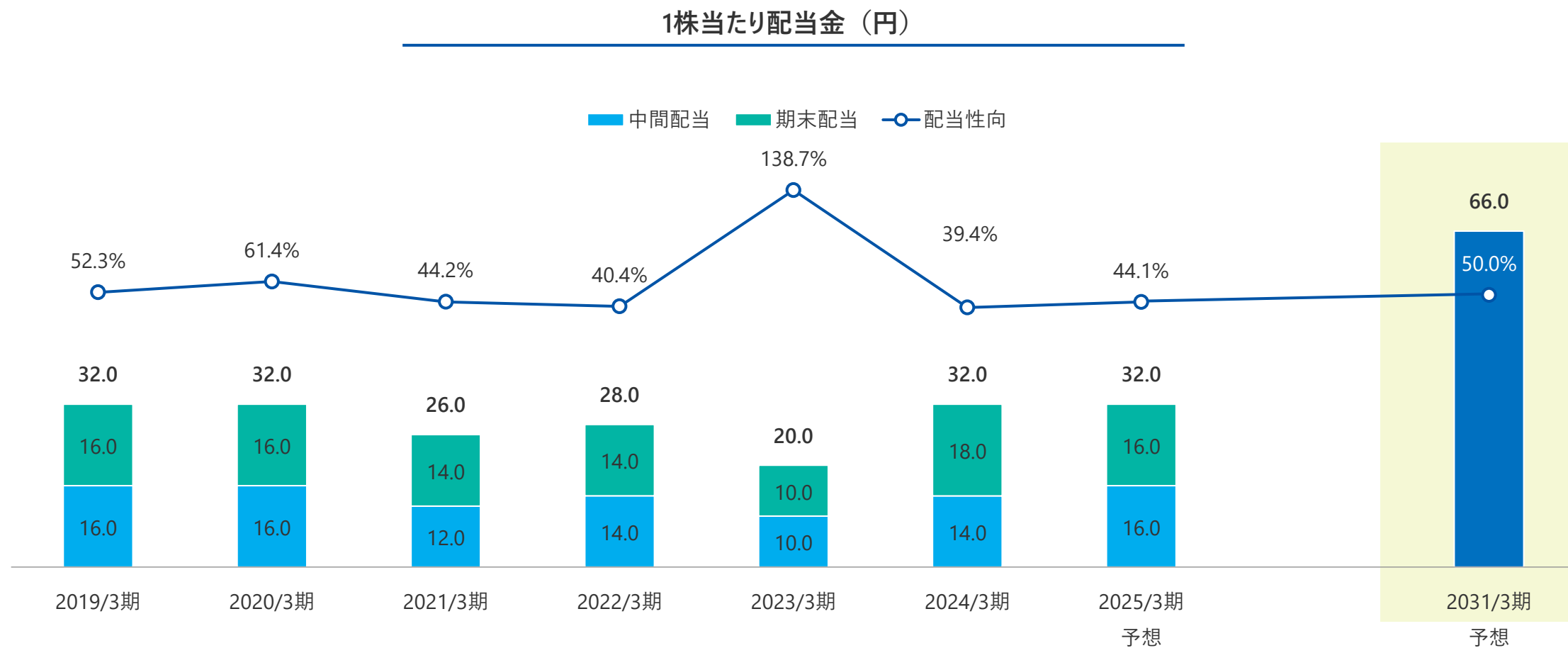


- ① 成長のための積極投資：生産性向上と環境負荷軽減を図る国内工場への投資・海外事業投資・研究開発費増
- ② 株主還元：安定増配&適時自己株式取得
- ③ M&A・提携：サーキュラーエコノミー実現のためのパートナー企業との連携やM & A

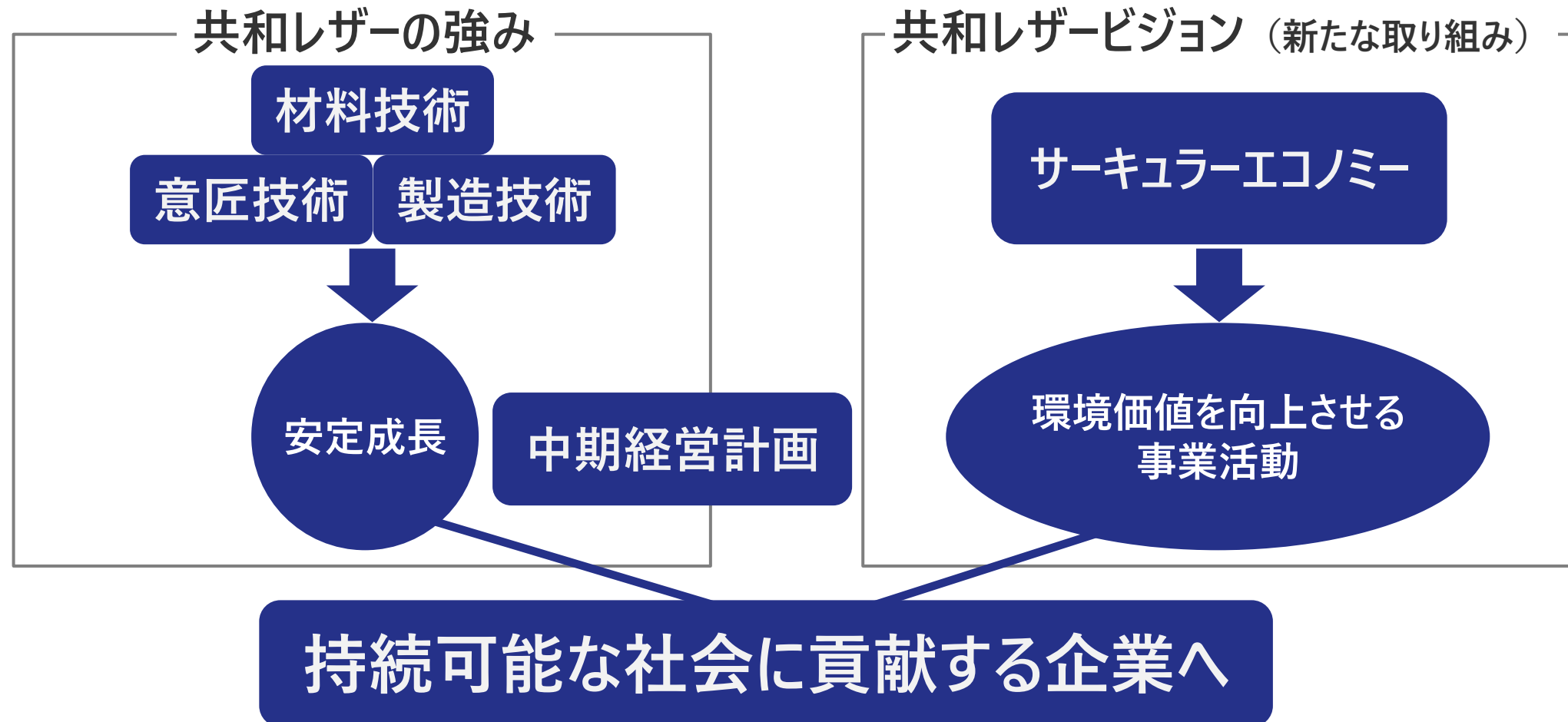
中期経営計画 活動7年間のキャッシュアロケーション



- － 2025年3月期は年間32.0円の配当を実施予定
- － 配当性向50%へ配当方針を変更、2031年3月期の年間配当は66.0円を計画



- 循環型社会の実現のために、「共和レザーが貢献できることは何か？」を改めて問い直し 構想したのが、今回発表した『共和レザー ビジョン』
- 2030年までの中期経営計画を策定し、従来の製造業から持続可能な社会に貢献する企業への転換を目指す



快適空間を化学する



【お問合せ先】

共和レザー株式会社

総務人事部

<https://www.kyowale.co.jp/contact/>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。